

2025 年 4 月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講座（学修分野）	国際比較経済（グローバル経営・経済）、 経済理論・統計、政策科学、経営学
専門科目	マクロ経済学

以下の問 1、問 2 の両方に解答しなさい。なお、問 1 は解答用紙の第 1 ページと第 2 ページに解答し、問 2 は解答用紙の第 3 ページと第 4 ページに解答しなさい。

問 1 いまあるマクロ経済が以下の連立方程式で記述されている。

$$Y = C(Y) + I(r) + G + NX(Y)$$

$$L(Y, r) = M$$

ただし、 Y は国民所得、 r は利子率、 $C(Y) = cY$ は消費関数 ($0 < c < 1$)、 $I(r) = -ar$ は投資関数 ($a > 0$)、 G は政府支出、 $NX(Y) = -mY$ は純輸出関数 ($m > 0$)、 $L(Y, r) = kY - br$ は貨幣需要関数 ($k > 0$, $b > 0$)、 M は貨幣ストックである。このとき、

- (1) 均衡国民所得と均衡利子率を求めなさい。
- (2) 一般に金融政策当局がとり得る、貨幣ストック M を増加させる政策的手法を 2 種類挙げ、それぞれについて簡潔に説明しなさい。
- (3) 純輸出にかかわる係数 m （限界輸入性向と解釈できる）が増加したとき、均衡における投資の水準はどのように変化するか説明しなさい。
- (4) 利子率は変化させずに国民所得を t 倍にする経済政策を考える。このとき政府支出 G と貨幣ストック M をそれぞれ何倍にすればよいか説明しなさい。

問 2 ある経済では、 Y ：産出量（GDP）、 A ：技術進歩（全要素生産性）、 K ：資本ストック、 N ：労働投入量、 α ：資本分配率 ($0 < \alpha < 1$) とするとき、マクロ的生産関数が次のように表される。

$$Y = AK^\alpha N^{1-\alpha}$$

- (1) この生産関数から、経済成長率・技術進歩率・資本ストックの成長率・労働投入量の成長率の関係を表す式を導出しなさい（導出の過程を詳細に記述すること）。
- (2) (1) で導出した式から、一人当たりの実質 GDP 成長率・労働者一人当たりの資本ストック量（資本装備率）の増大の速度・技術進歩率の関係を表す式を導出しなさい（導出の過程を詳細に記述すること）。
- (3) 労働分配率が 0.7 のときに、資本の深化（資本装備率の増加）が 1% 進むと一人当たり

GDP は何%成長するかについて答えなさい。

- (4) 経済成長を議論する際に無視できない要因として、IT・ネット革命の進展がある。「情報コスト」という言葉を用いながら、情報革命が日本の経済成長率に寄与するプロセス（過程）について、具体的な例をいくつか挙げながら詳細に説明しなさい。

以上